

2012年7月30日
株式会社リクルート

「じゃらん」 宿泊旅行調査 2012



東日本大震災直後から1年間の宿泊旅行※1実施率は、前年度より微増。一方、旅行実施回数は減少し、国内旅行市場自体はやや縮小。

- ・震災後の「東北」観光は、「東北」「北海道」居住者の旅行者が増。
- ・今年度LCCを利用した旅行意向は、「沖縄」「九州」「北海道」居住者が高い。

※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO:峰岸真澄)のカスタマーアクションプラットフォームカンパニーに設置されたじゃらんリサーチセンター(センター長:沢登次彦)は、この度、全国約1万5800人の宿泊旅行者を対象に、「じゃらん宿泊旅行調査2012」を実施しました。

この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う旅行実態を把握するために行っている調査で、出張・帰省・修学旅行などを除いたマーケットの動向を調べています。昨年度1年間(2011年4月～2012年3月)における国内での宿泊旅行の実態について、その行き先や回数、旅行費用などの調査をし、今年で8回目の実施となります。主な結果は以下の通りです。

<TOPICS> ※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く

●東日本大震災直後の1年間(2011年4月～2012年3月)の宿泊旅行※1実施率は、57.6%と震災前の1年間より微増した(0.9ポイント増)。一方、1年間の旅行実施回数は微減し、全国の延べ宿泊旅行者泊数(人泊)は約2億3987万人泊(前年度比2.8%減)となった。

.....P3

●東日本大震災後、月別延べ宿泊旅行者数は2011年10月からほぼ全月で前年度超え。若い層ほど戻りが早く、50～79歳(シニア)層は秋まで国内旅行を手控えていた様子がかがえる結果。「東北」ブロックへの延べ宿泊旅行者数は、「東北」「北海道」ブロック居住者が増加。

.....P4-5

●前年度比で、延べ宿泊旅行者数は西高東低の傾向。九州新幹線の影響か、「九州」への旅行が大きな伸び。都道府県別の増加率1位「熊本県」は、伸び率18.5%、47万人泊増。

.....P6

●全国の宿泊旅行にかけられた総額は約6.9兆円と調査開始以来、最低。1回あたりの宿泊旅行にかけた費用(大人1人あたり)は、前年度より300円減少し4万6600円に。個人旅行は、交通費が微増、宿泊費、現地小遣いが微減。

.....P7

●「一人旅」は調査開始以来、7年連続増加し14.1%。特に20～34歳の男性の「一人旅」が急増。

.....P8

●LCCを活用した旅行意向は沖縄、九州、北海道居住者が高く、関東、関西居住者の意向を上回る。

.....P11

■<<テーマ別・都道府県ランキング>>

▶地元ならではのおいしい食べ物が多かった	1位	高知県	2位	沖縄県	3位	北海道
▶魅力のある特産品や土産物が多かった	1位	沖縄県	2位	京都府	3位	北海道
▶魅力的な宿泊施設が多かった	1位	大分県	2位	沖縄県	3位	千葉県
▶地元の人のホスピタリティを感じた	1位	沖縄県	2位	山形県	3位	秋田県
▶現地で良い観光情報を入手できた	1位	沖縄県	2位	京都府	3位	奈良県
▶子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	和歌山県
▶大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	1位	沖縄県	3位	京都府

.....P9-10

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルート 広報部 社外広報G 西川 裕子
TEL: 03-6835-6590 E-mail: yukon@r.recruit.co.jp

調査概要

◎調査名 じゃらん宿泊旅行調査2012

◎調査方法 インターネットによる調査

■1次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率と、社会的な出来事の影響を知るために実施した。
- ②調査時期 2012年4月6日（金）～10日（火）
- ③調査対象 全国20～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④配信数 245,763件
- ⑤調査内容 昨年度1年間（2011年4月～2012年3月）の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の有無について
- ⑥回収数 80,000件（回収率32.6%）
- ⑦1次調査集計対象者数 20,000件
- ※2次調査において都道府県別、性・年代別の割付にあった回収が得られるように配信した。
 - ・配信数と割付について
 - 2次調査のセル別目標回収数は、『平成22年国勢調査』の都道府県別・性・年代別の人口に概ね従うように47都道府県を5ランクに分けサンプル数を割りつけて配信した。ランクごとに6：5：3：2：1の割合で、合計約15,400件の回収を目標とした。
 - ・2次調査の配信数は、ウェイトバック値のバランスをなるべく揃えるために、県別に均等割付ではなく、ランクを設けて割付を行った上で、1次調査および追加調査の旅行実施者45,843件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した。
 - ※回収された80,000件のうち都道府県別・性・年代別に割付を行い20,000件を抽出。性・年代別宿泊旅行実施率を算出。
- ⑧2次調査対象件数 45,090件

■2次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した。
- ②調査時期 2012年4月11日（水）～17日（火）
- ③調査対象 45,843件（うち、同居家族モニター753件）
- ・1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」、と回答した人：45,090件
 - ・追加調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」、と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：753件
 - ※調査回収難度が高い60歳以上の回収数を増やすために追加調査を実施した。追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として該当家族が同席する上で回答という条件で実施。（回収数20,000件<配信数63,442件 回収率31.5%>、2次調査対象者数753件）
- ④配信数 25,063件（うち、同居家族モニター356件）
- ※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割付にあわせてランダムに抽出した。
- ⑤調査内容 昨年度1年間に実施したすべての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また1人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した。
- ⑥回収数 15,811件（回収率63.1%）
- ⑦有効回答数 15,771件（うち、同居家族モニター285件、旅行件数ベース30,825件）

※集計・分析手法について

はじめに平成23年10月1日現在推計人口（総務省統計局発表）および1次調査結果を用い、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析にあたり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県別、性・年代別構成比に基づいてウェイトバックを行い、構成比のずれを補正している。

また今回は60歳以上の登録モニター数が少ない県について、60歳以上の家族と同居している登録モニターに代理回答を実施、2次調査の調査対象として追加した。

◇じゃらんリサーチセンターの概要

「じゃらんリサーチセンター」は、国をはじめ地方自治体、観光関連事業者にとって、すぐ使える情報を広く提供し、かつ、日本の観光振興にさまざまな切り口から提案を行うことで、新しい観光ムーブメントを創出し、観光産業全体のさらなる活性化に寄与することを狙いとし、2005年8月より、株式会社リクルート旅行ディビジョン内に設置されている組織です。

東日本大震災直後の昨年度1年間(2011年4月～2012年3月)宿泊旅行※1実施率は57.6%と震災以前の1年間より微増(0.9ポイント増)。1年間の旅行実施回数は微減し、全国の延べ宿泊旅行者数※2は約1億4686万人(前年度比2.2%減)、延べ宿泊旅行者泊数(人泊数)※3は約2億3987万泊(前年度比2.8%減)となった。

東日本大震災直後の2011年4月1日～2012年3月末の昨年度1年間に宿泊旅行を行った人の割合は、震災前の前年度56.7%→57.6%と0.9ポイント微増した。旅行実施者の年間平均旅行回数は2.73回→2.64回、1回あたりの宿泊数はほぼ横ばいの1.63泊。結果、延べ宿泊数※3は前年度比で699万人泊減(前年度比2.8%減)の2億3987万人泊となった。

- ※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く
- ※2 延べ宿泊旅行者数・・・推計人口×宿泊旅行実施率×宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数
- ※3 延べ宿泊旅行者泊数(人泊数)・・・延べ宿泊旅行者数×宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数

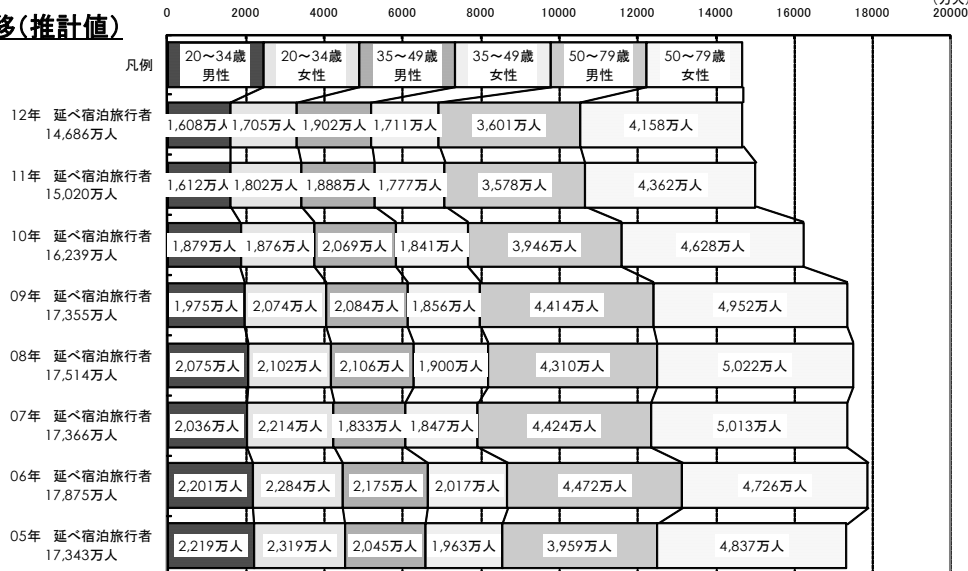
◇延べ宿泊旅行者数の推計方法

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

	H23年10月1日 現在推計人口	調査結果			推計値		
	人口 (万人) <A>	宿泊旅行 実施率 (%) 	宿泊旅行 実施者の 年間平均 旅行回数 (回) <C>	宿泊旅行 実施者の 1回の旅行あたり 平均宿泊数 (泊) <D>	実 宿泊旅行者数 (万人) A*B	延べ 宿泊旅行者数 (万人回) A*B*C	延べ 宿泊旅行者泊数 (万人泊) A*B*C*D
[12年]全国20～79歳男女	9,646	57.6	2.64	1.63	5,561	14,686	23,987
前年との差→		0.9			72	▲ 334	▲ 699
					1.3%	▲ 2.2%	▲ 2.8%
[11年]全国20～79歳男女	9,672	56.7	2.73	1.64	5,489	15,020	24,686
[10年]全国20～79歳男女	9,653	60.3	2.79	1.65	5,819	16,239	26,778
[09年]全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
[08年]全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
[07年]全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
[06年]全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
[05年]全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

◇性・年別 延べ宿泊旅行者数の推移(推計値)

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。



※人口について、下記の統計値を用いて調査を行っています。

- 2012年 : H23年10月1日現在推計人口
- 2011年 : H22年国勢調査<速報>
- 2010年 : H21年10月1日現在推計人口
- 2009年 : H20年10月1日現在推計人口
- 2008年 : H19年10月1日現在推計人口
- 2007年 : H17年10月1日現在国勢調査人口
- 2006年 : H16年10月1日現在推計人口
- 2005年 : H15年10月1日現在推計人口

TOPIC 東日本大震災後の旅行実施回復状況①【月別】

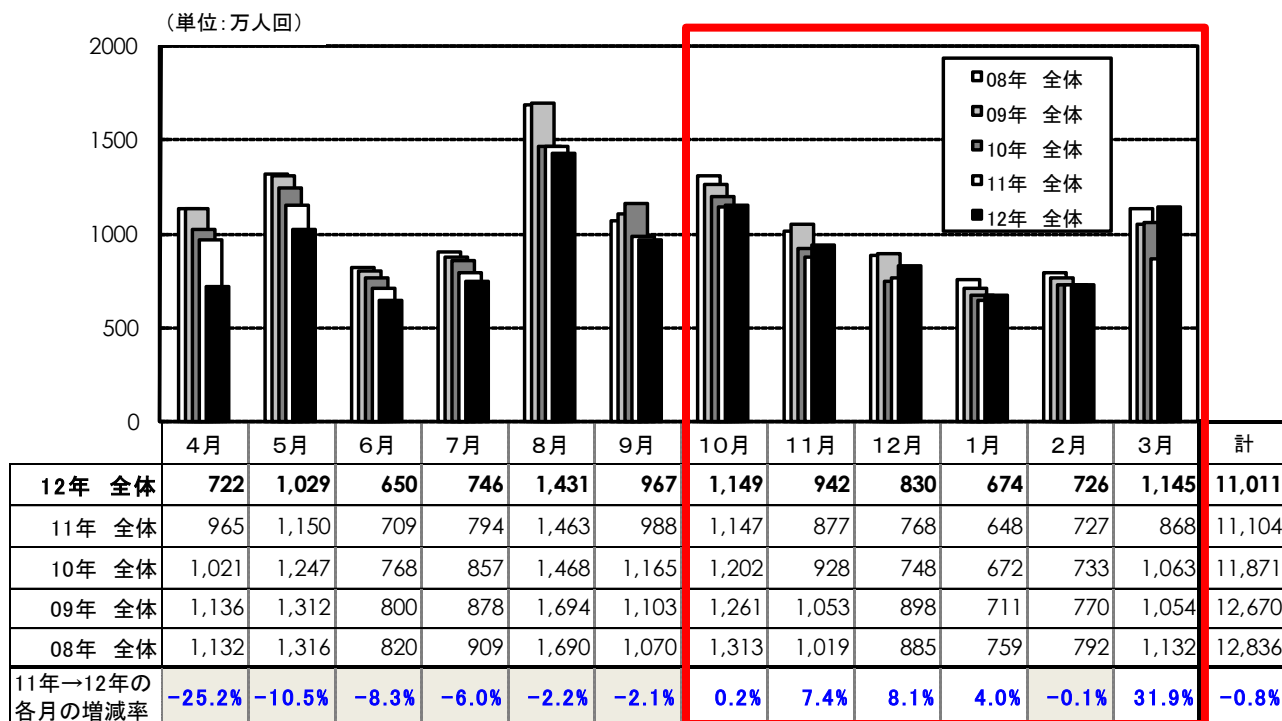
東日本大震災後、月別 延べ宿泊旅行者数※は2011年10月からほぼ全月で前年度超え。若い人ほど戻りが早く、シニア層は秋まで手控えた様子が見られる。

東日本大震災から約1カ月後の2011年4月以降の「延べ宿泊旅行者数(旅行件数)」を前年度と比較すると2011年4月では約25%減と大きく下回っているものの5月には減少幅が約1割減に縮小。以降9月までは前年度の件数を下回った。一方、10月以降(2月以外)前年同月の延べ宿泊旅行者数を上回り、2012年3月は前年同月を大幅に上回った(約32%増)。

年代別に比較すると、20~34歳では2011年5月には前年の延べ宿泊旅行者数を上回り、35~49歳では6月に前年を上回った。50~79歳のシニア層では、2011年10月までは前年を下回っているが、11月以降全月で前年の延べ旅行者数を上回った。若い世代ほど、旅行実施の戻りが早かった様子がうかがわれた。

※延べ宿泊旅行者数・・・推計人口×宿泊旅行実施率×宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数(単位:万人泊)

◇延べ宿泊旅行者数 月別(推計値)



※表例は調査年を示しており、調査対象は前年度の4月~3月までの旅行であることに注意

※実施時期については、1人最大3回までの旅行についてたずねているため、各年の件数の合計は、P3の延べ宿泊旅行者数の推計値と異なる。P3の延べ宿泊旅行者数は、1人あたり1年間に行った全ての旅行回数をたずねた結果から推計している。

◇年代別・月別 延べ宿泊旅行者数(前年度対比)

20~34歳では5月に月別延べ宿泊旅行者数が前年度を上回り、以降、前年同月の9割を超える結果となった。35~49歳では、6月に前年度の月別延べ宿泊旅行者数を上回った。50~79歳層では、7月以降前年同月の9割を超え、11月以降、前年同月の延べ宿泊旅行者数を上回った。

(単位:万人回)

	年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20~34歳	12年	140	237	118	171	337	265	206	176	219	168	197	292
	11年	182	234	129	184	359	268	208	177	204	154	210	249
35~49歳	12年	163	256	145	218	495	219	239	198	221	190	154	296
	11年	204	289	128	230	505	217	232	187	209	181	167	213
50~79歳	12年	419	537	388	357	599	482	704	568	390	316	374	558
	11年	579	627	452	380	600	503	708	513	355	312	350	406

※濃網掛け/白文字・・・前年同月件数を上回っている ※網掛け/黒文字...前年同月比で9割以上の件数

TOPIC 東日本大震災後の旅行実施回復状況②【地域別】

東北ブロックの「延べ宿泊旅行者数」は、東北エリア居住者で10万人、北海道エリア居住者で2万人増。一方、関東エリア居住者からは97万人減、他各エリア居住者で減少傾向。

全体では、九州ブロックへの旅行者が前年度比で109万人増。九州、関東、中四国エリア居住者の旅行者が増えた。

宿泊先ブロック別延べ宿泊旅行者数の前年度比較で増減数をみると、東北ブロックへの旅行は全体で168万人減。うち、東北ブロック居住者では旅行者数が増えており、東北人が東北観光を支える結果となった。

一方全体では、最も延べ宿泊旅行者が増加したのが九州、次いで東海、関西の各ブロックで、“西高東低”の傾向がみられた。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

◇11年⇒12年 居住ブロック別にみた宿泊先ブロック別 延べ宿泊旅行者数の増減数

		宿泊先ブロック								
		北海道ブロック	東北ブロック	関東ブロック	甲信越・北陸ブロック	東海ブロック	関西ブロック	中四国ブロック	九州ブロック	沖縄ブロック
全体	12年	944	1,292	3,773	1,967	1,810	2,449	1,456	1,780	436
	11年	978	1,461	3,920	2,067	1,759	2,427	1,496	1,671	461
	12年-11年増減	-34	-168	-147	-99	51	22	-40	109	-25
居住ブロック	北海道ブロック	-7	2	28	3	1	18	-3	-8	-10
	東北ブロック	8	10	-32	-6	-4	-6	-8	7	4
	関東ブロック	-6	-97	-81	-12	47	-49	11	34	-32
	甲信越・北陸ブロック	1	-27	14	-37	-10	0	1	-3	1
	東海ブロック	-3	-12	9	-11	-1	8	-4	-9	0
	関西ブロック	-14	-16	-25	-30	2	37	-6	27	8
	中四国ブロック	-8	-11	-34	-7	11	-2	-29	30	-2
	九州ブロック	-4	-15	-17	2	0	11	3	42	4
沖縄ブロック	-2	-2	-8	-1	5	4	-5	-10	3	

※ブロック別増減／-30万人以上：網掛け白文字、+30万人以上：網掛け黒文字

※全体増減／-100万人以上：網掛け白文字、+100万人以上：網掛け黒文字はマイナスを示す

【参考】居住ブロック別にみた東北各県への延べ宿泊旅行者数の増減数

		東北6県					
		青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
全体	12年	175	214	332	115	183	272
	11年	192	215	359	157	192	346
	12年-11年増減	-17	-1	-26	-42	-8	-74
居住ブロック	北海道ブロック	1	-1	5	-2	1	-1
	東北ブロック	4	21	-23	6	-2	4
	関東ブロック	6	-15	-6	-25	7	-65
	甲信越・北陸ブロック	-2	2	-6	-4	-7	-10
	東海ブロック	-9	-1	7	-9	0	-0
	関西ブロック	-11	-2	1	-4	-2	1
	中四国ブロック	-4	-2	-2	-1	-2	-0
	九州ブロック	-1	-3	-2	-3	-4	-3
沖縄ブロック	-1	-0	-1	-1	1	0	

「延べ宿泊旅行※者数の多い旅行先」、都道府県別増加率でも、西高東低の傾向。九州新幹線の影響か、増加率1位熊本県は、延べ宿泊旅行者数47万人増。

「延べ宿泊旅行者数の多い旅行先」上位10都道府県の中で、東日本に位置する各都道府県では、前年度の延べ宿泊旅行者数(推計値)を前年度を下回っていた。一方、トップ10にランクインしている西日本各府県は前年度の延べ宿泊旅行者数を上回っていた。

九州新幹線の影響か、「延べ宿泊旅行者増加率」上位に、沿線各県がランクインしていた。加えて、2011年度大河ドラマの影響か滋賀県、前年、口蹄疫や新燃岳噴火などの影響で旅行者数を落とした宮崎県に回復がみられた。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数(推計値)

※上位10都道府県

全体										
2012 推計値		順位 変動	2011 推計値		2010 推計値		2009 推計値		2008 推計値	
全国	14,686万人				15,020万人		16,239万人		17,355万人	
1位 東京都	1,453万人	←	(1位 1,499万人)	(1位 1,628万人)	(1位 1,734万人)	(1位 1,770万人)				
2位 北海道	944万人	←	(2位 978万人)	(2位 1,136万人)	(2位 1,201万人)	(2位 1,224万人)				
3位 静岡県	787万人	↑	(5位 784万人)	(4位 828万人)	(3位 961万人)	(5位 936万人)				
4位 長野県	786万人	←	(4位 816万人)	(3位 871万人)	(4位 914万人)	(3位 981万人)				
5位 神奈川県	781万人	↓	(3位 837万人)	(5位 807万人)	(5位 860万人)	(4位 959万人)				
6位 京都府	690万人	←	(6位 687万人)	(7位 675万人)	(7位 740万人)	(6位 760万人)				
7位 大阪府	679万人	←	(7位 678万人)	(6位 698万人)	(6位 744万人)	(7位 719万人)				
8位 千葉県	572万人	←	(8位 593万人)	(8位 634万人)	(8位 702万人)	(8位 693万人)				
9位 兵庫県	525万人	←	(9位 476万人)	(9位 558万人)	(9位 546万人)	(9位 576万人)				
10位 福岡県	457万人	↑	(11位 446万人)	(10位 474万人)	(11位 523万人)	(11位 510万人)				

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数 増加率(2011 - 2012推計値)

※上位10都道府県

全体			
2011→12 増加率		増加数	
1位	熊本県	18.5%	47万人
2位	岡山県	15.3%	27万人
3位	滋賀県	15.2%	24万人
4位	宮崎県	14.7%	16万人
5位	埼玉県	14.2%	16万人
6位	愛知県	11.8%	45万人
7位	兵庫県	10.2%	48万人
8位	大分県	9.6%	27万人
9位	佐賀県	8.7%	8万人
10位	鹿児島県	5.3%	12万人

TOPIC 宿泊旅行にかけられた費用

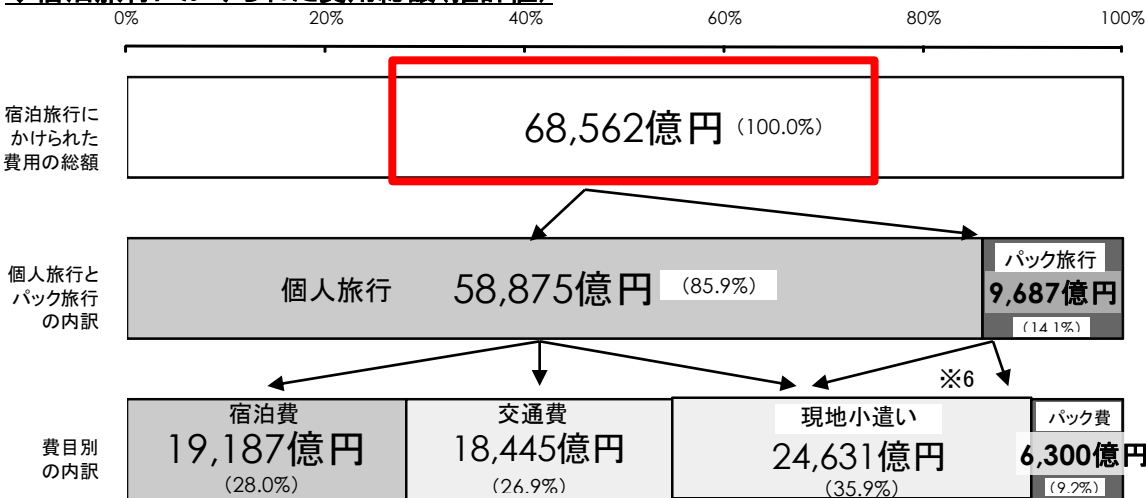
全国の宿泊旅行にかけられた総額は約6.9兆円と調査開始以来、最低。
 1回(大人1人あたり)の宿泊旅行にかけた費用は、前年度より300円減少し4万6,600円に。個人旅行は前年度比較で、交通費が微増、宿泊費、現地小遣いが微減した。

1回あたりの宿泊旅行にかかる費用※4が、前年度46,900円→46,600円と前年度比で300円減少。個人旅行※5における内訳で見ると、交通費は13,700円→14,000円で前年度から300円増、宿泊費は14,900円→14,600円へと300円減少した。旅行手配は、個人手配旅行の比率がさらに高まり、全体の89.3%となった。

※4 1回の宿泊旅行にかけられた1人あたり平均費用…1回の宿泊旅行にかけた費用について、個人旅行の場合、1人あたりの宿泊費・交通費・現地小遣いの合計、パック旅行の場合、1人あたりのパック費・現地小遣いの合計。20歳未満の子供を連れて旅行の場合は、全員でかかった費用を同行した大人の人数で割っている。

※5 個人旅行…個人で宿を手配した旅行で、旅行会社を通して宿を手配した場合も含む。

◇宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)



〈参考〉

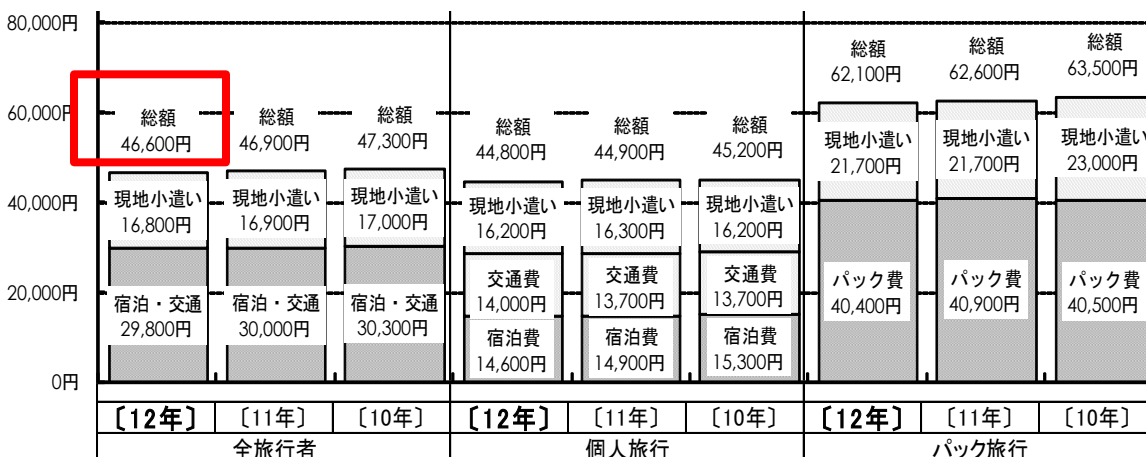
05年～12年比較 (推計値)

宿泊旅行にかけられた費用の総額(億円)	前年比
12年	68,562 ▲2.7%
11年	70,477 ▲8.5%
10年	76,984 ▲12.6%
09年	88,076 1.5%
08年	86,781 0.7%
07年	86,180 ▲1.9%
06年	87,889 0.1%
05年	87,835 -

※6 現地小遣い…旅行先での飲食・買い物、遊興費、目的エリア内での移動費用を含む。

◇1回の宿泊旅行にかかる費用(大人1人あたり)

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合があります。



〈参考〉

05年～12年比較

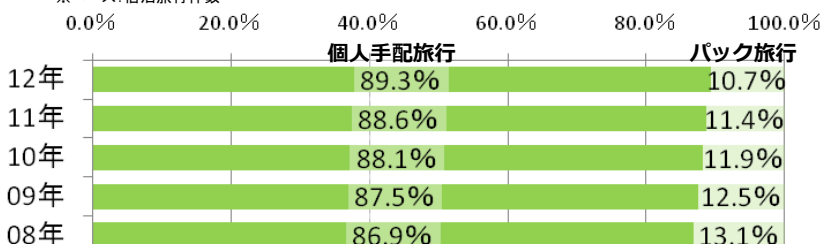
1回の宿泊旅行にかけられた費用(円)	大人1人当たり	前年比
12年	46,600	▲0.6%
11年	46,900	▲0.8%
10年	47,300	▲6.5%
09年	50,600	2.2%
08年	49,500	0.0%
07年	49,500	0.6%
06年	49,200	▲2.8%
05年	50,600	-

<全国の宿泊旅行費用総額の推計方法>

- ①集計データより全国の性・年代別の個人旅行とパック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②全国の性・年代・手配方法(個人orパック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③全国の性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④性・年代別の費用総額の結果を積み上げて全国の宿泊旅行費用総額を算出

〈参考〉宿泊旅行の手配方法

※ベース: 宿泊旅行件数



TOPIC 宿泊旅行の同行形態

「親を連れた家族旅行」の孝行旅が、5年連続で増加傾向。「一人旅」は調査開始以来、7年連続増加し14.1%。男性の「一人旅」は、全年代で増加傾向。

最も割合が高いのは「夫婦二人での旅行」(24.5%)。「親を連れた旅行」が5年連続で微増している。「一人旅」は7年連続増加し14.1%となった。属性別の同行者をみていくと、「一人旅」は男性が女性よりも高く、20～34歳男性は、調査開始以来、8.4ポイントも上昇し23.3%となった。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

◇宿泊旅行の同行形態(単一回答)

<ベース: 宿泊旅行件数>

		一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下の子連れ	中学生以上の子連れ	親連れた家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど	その他	(%)
〔12年〕	全体	14.1	7.4	24.5	12.6	4.0	8.0	8.8	14.3	4.5	1.9	
	〔11年〕	13.1	7.2	24.4	12.8	3.9	7.8	9.0	15.3	4.7	1.8	
	〔10年〕	12.9	7.4	24.3	12.4	3.7	7.7	9.3	15.2	5.2	2.0	
	〔09年〕	12.5	7.4	24.2	12.0	3.6	7.6	9.3	15.3	5.8	2.2	
	〔08年〕	12.0	7.3	23.8	12.4	3.7	7.2	9.3	15.9	6.1	2.2	
	〔07年〕	11.2	7.7	24.0	12.8	3.5	7.1	9.5	16.4	5.7	2.2	
	〔06年〕	10.8	7.7	23.6	13.5	3.7	7.0	9.5	15.6	6.4	2.1	
	〔05年〕	10.5	8.1	22.4	14.6	4.3	7.3	8.6	15.3	5.8	3.0	
〔12年〕 性年代別 内訳	20～34歳	男性	23.3	20.4	9.8	8.7	0.3	10.2	2.4	17.7	6.7	0.6
		女性	10.7	17.8	15.7	15.5	0.3	13.6	4.8	16.8	3.3	1.3
	35～49歳	男性	18.5	8.6	15.7	28.3	5.2	7.3	2.9	8.1	4.8	0.7
		女性	8.2	4.6	17.7	33.4	7.7	10.2	6.1	8.6	2.1	1.4
	50～79歳	男性	17.4	3.2	36.1	4.7	4.8	4.2	9.1	12.5	5.9	2.1
		女性	9.9	2.0	31.2	3.0	4.2	7.3	16.7	18.7	3.7	3.2

◇「一人旅」構成比の推移

<ベース: 宿泊旅行件数>

		2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	(%)
20～34歳	男性	23.3	20.9	21.6	20.1	20.3	19.5	17.7	14.9	
	女性	10.7	10.0	10.3	9.2	8.6	8.7	8.2	7.2	
35～49歳	男性	18.5	18.4	16.7	15.7	15.2	13.9	13.7	12.3	
	女性	8.2	9.4	7.4	7.7	7.3	6.7	6.7	5.8	
50～79歳	男性	17.4	14.1	14.1	14.6	13.1	12.2	12.5	13.6	
	女性	9.9	9.8	10.3	9.6	9.5	8.8	8.1	8.8	

■地元ならではのおいしい食べ物が多かった

－ 1位：高知県、2位：沖縄県、3位：北海道

前年度圏外からトップ10入りしたのは、鹿児島県（前年12位）、京都府（前年17位）、熊本県（前年30位）。バラエティ豊かな郷土料理やご当地グルメが目立つ。

エリアにより、刺身・魚介類一般・カニ・ウニ・エビなど、地元でとれる新鮮な海の幸、ブランド肉等、素材名が多く挙げられるところ、郷土料理やご当地グルメ、地元にはしかない有名ローカル店舗の固有名詞が多く挙げられているエリアに分かれる。また高知県の「カツオ」、福井県「カニ」、香川県「うどん」等、地域を代表する食が多くのコメントを占めるエリアもあった。

(単位：%)

2012 順位	
全体平均	54.2
1位 高知県	73.3
2位 沖縄県	71.1
3位 北海道	69.7
4位 香川県	69.3
5位 福井県	69.0
6位 広島県	67.3
7位 石川県	66.9
8位 鹿児島県	65.4
9位 京都府	64.6
10位 熊本県	64.0

2011 順位	
全体平均	57.1
1位 高知県	76.7
2位 宮城県	76.1
3位 石川県	73.9
4位 沖縄県	72.7
5位 福井県	72.4
6位 北海道	71.0
6位 香川県	71.0
8位 富山県	70.6
9位 長崎県	68.7
10位 広島県	67.9

■魅力のある特産品や土産物が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：京都府、3位：北海道

食だけでなく、工芸品等バラエティ豊かに挙げられている沖縄県が1位。次いで、和菓子や抹茶など定番商品が強い京都府が続く。前年20位以下の広島県、熊本県が躍進。

1位 沖縄県ではちんすこう、泡盛など食から、「シーサー」「琉球ガラス」などの工芸品まで幅広く挙げられている。2位の京都府では和菓子、漬物、抹茶、湯葉など定番商品が根強い人気。全国的に、定番ご当地グルメの“ご当地買い”が目立つ。全国で購入可能なものでも、旅先で買うと一味違うことを実感できるのだろうか。

(単位：%)

2012 順位	
全体平均	42.7
1位 沖縄県	66.3
2位 京都府	62.2
3位 北海道	57.0
4位 高知県	56.9
5位 長崎県	54.5
6位 青森県	53.3
7位 広島県	51.3
8位 鹿児島県	51.2
9位 香川県	50.9
10位 和歌山県	50.5
10位 熊本県	50.5

2011 順位	
全体平均	45.4
1位 沖縄県	68.8
2位 京都府	62.8
3位 長崎県	61.3
4位 高知県	58.9
5位 北海道	58.1
6位 石川県	57.1
7位 鹿児島県	56.5
8位 宮城県	56.3
9位 宮崎県	55.8
10位 香川県	52.2

■魅力的な宿泊施設が多かった

－ 1位：大分県、2位：沖縄県、3位：千葉県

顔ぶれは前年度とほぼ同様。1位は老舗温泉が支持された大分県。沖縄県は定番リゾートホテルが人気。固有名詞だけでなく、温泉地名も多かった。

全国的には、温泉人気を象徴するように、老舗宿泊施設の固有名詞だけでなく、温泉地名自体が多く挙げられている地域も多かった。また、テーマパークやビーチ名なども多く挙げられ、エリアの魅力を宿の魅力が支える構図がうかがえた。

(単位：%)

2012 順位	
全体平均	38.1
1位 大分県	61.5
2位 沖縄県	56.7
3位 千葉県	47.8
4位 神奈川県	47.5
5位 熊本県	46.3
6位 岐阜県	46.0
7位 栃木県	44.3
8位 石川県	43.5
9位 北海道	43.4
10位 和歌山県	42.9

2011 順位	
全体平均	40.6
1位 大分県	63.4
2位 沖縄県	56.3
3位 千葉県	51.4
4位 熊本県	49.6
5位 神奈川県	49.1
6位 群馬県	47.5
7位 北海道	47.3
8位 岐阜県	47.2
9位 石川県	47.1
10位 栃木県	46.6

■地元の人へのホスピタリティを感じた

－ 1位：沖縄県、2位：山形県、3位：秋田県

7年連続1位の沖縄県、2位山形県は7位から浮上、3位秋田県は10位から浮上し、東北5県がトップ10入り。

前年度比較では、全体平均は3.3ポイントダウン。1位の沖縄県でも4.2ポイントダウンしているものの、東北の山形県、秋田県、福島県ではポイントアップ。震災後の来訪への感謝が伝わったことがうかがえる。具体的なスポットに関しては、ホテル、観光スポット、買い物スポットに加え、タクシー、居酒屋、飲食店や市街地名が挙げられており、散策中に触れ合う一般人との交流体験が評価された。

(単位：%)

2012 順位	
全体平均	21.3
1位 沖縄県	45.2
2位 山形県	32.9
3位 秋田県	31.0
4位 福島県	30.9
5位 岩手県	29.1
6位 長崎県	28.7
7位 宮城県	27.7
7位 愛媛県	27.7
9位 京都府	27.2
10位 熊本県	26.1

2011 順位	
全体平均	24.6
1位 沖縄県	49.4
2位 宮崎県	36.5
3位 鹿児島県	34.3
4位 青森県	32.5
5位 宮城県	31.9
6位 岩手県	31.0
7位 山形県	30.9
8位 京都府	30.8
9位 島根県	30.0
10位 秋田県	29.7

■子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:和歌山県

1位千葉県ではテーマパークだけでなく、牧場や水族館も人気。次いで「沖縄美ら海水族館」が人気の沖縄県、和歌山県は「アドベンチャーワールド」や「サファリパーク」が支持されている。

全国的に、テーマパーク、水族館・動物園が数多く挙げられるのに加え、釣り、マリンスポーツ、カブトムシ採取などといった体験型のアクティビティがコメントの中で目立つようになった。体験型コンテンツが充実した自然体験施設への支持の高まりがうかがえる。

(単位:%)

2012 順位	
全体平均	21.2
1位 千葉県	57.5
2位 沖縄県	40.1
3位 和歌山県	38.8
4位 大阪府	28.5
5位 三重県	28.0
6位 大分県	26.9
7位 栃木県	26.5
8位 長崎県	24.8
9位 山梨県	24.7
10位 新潟県	22.6

2011 順位	
全体平均	22.3
1位 千葉県	63.6
2位 沖縄県	38.5
3位 和歌山県	35.2
4位 栃木県	31.5
5位 三重県	31.0
6位 大阪府	30.0
7位 山梨県	25.7
8位 熊本県	25.5
9位 長崎県	24.1
10位 兵庫県	23.5

■若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:大阪府

上位の顔ぶれは前年度とほぼ変わらず。アウトレットやショッピングエリア、テーマパークが人気。アウトドアスポーツも挙げられているエリアも。

全体の傾向として、街歩き、ショッピングエリア(アウトレット、街の名前など)やテーマパーク、水族館・動物園などの施設名も多く挙げられていた。4位東京都では、早くも開業前の「東京スカイツリー」も数多く挙げられていた。

(単位:%)

2012 順位	
全体平均	24.2
1位 千葉県	53.9
2位 沖縄県	48.8
3位 大阪府	41.2
4位 東京都	36.5
5位 福岡県	31.5
6位 和歌山県	30.3
7位 神奈川県	27.0
8位 北海道	25.4
8位 長崎県	25.4
10位 兵庫県	24.9

2011 順位	
全体平均	27.1
1位 千葉県	60.2
2位 沖縄県	51.4
3位 大阪府	47.9
4位 東京都	42.5
5位 福岡県	42.4
6位 神奈川県	31.0
7位 兵庫県	30.9
8位 北海道	27.6
9位 三重県	27.0
10位 栃木県	26.8

■大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位:千葉県、沖縄県、3位:京都府

1位の千葉県、沖縄県ともに、子供、若者、大人が楽しめるスポットや施設・体験ランキングのトップ2として不動。前年トップ10圏外からランクインした和歌山県は熊野古道、三重県は伊勢神宮がほとんどのコメントを占めていた。

全体の傾向として多岐にわたるスポットや施設が挙げられている。繁華街の通りの名称なども多く挙げられている。また、名所・旧跡や自然園、テーマパーク、美術館、温泉、街歩きしやすいエリアを挙げる回答が目立つ。全体的に神社仏閣も多く挙げられ、スピリチュアルスポットブームの継続がうかがえる。

(単位:%)

2012 順位	
全体平均	38.6
1位 千葉県	55.6
1位 沖縄県	55.6
3位 京都府	54.8
4位 大分県	43.4
5位 東京都	43.3
5位 長崎県	43.3
7位 和歌山県	43.0
8位 大阪府	42.8
9位 奈良県	42.0
10位 三重県	41.8

2011 順位	
全体平均	42.2
1位 千葉県	59.3
2位 京都府	57.4
3位 沖縄県	55.9
4位 奈良県	52.8
5位 大阪府	48.5
6位 東京都	48.1
7位 島根県	47.0
8位 福岡県	46.6
9位 長崎県	45.4
10位 大分県	44.8

■現地で良い観光情報を入手できた

－ 1位:沖縄県、2位:京都府、3位:奈良県

全体的に、駅、ホテル、観光スポットに設置されたパンフレット、宿泊施設やタクシーの中で、地元のスタッフから入手した情報が満足度を上げている様子。

※今年度より追加調査。前年データなし

(単位:%)

2012 順位	
全体平均	22.5
1位 沖縄県	46.2
2位 京都府	39.0
3位 奈良県	33.8
4位 秋田県	29.3
5位 鹿児島県	29.2
6位 広島県	28.1
7位 長崎県	27.9
8位 徳島県	25.8
9位 北海道	25.3
10位 山形県	25.0
10位 山梨県	25.0
10位 熊本県	25.0

＜ランキングの算出方法＞

※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

- ①訪問した旅行先の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。
- ②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が多い順にランキング。

＜コメントの回答方法＞

「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でコメント記入。

※対象設問:「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「地元の人のホスピタリティを感じた」「現地で良い観光情報を入手できた」

TOPIC 今年度中に実施したい旅行

**ローコスト キャリアは沖縄、九州、北海道居住者の「本州」への旅行意向が高い。九州新幹線も関西より九州居住者の意向が高い。
東京スカイツリーは、関東、東北ブロック居住者を筆頭に全国区で人気**

今年度1年以内実施したい旅行について尋ねた。ローコストキャリアを利用した旅行について、沖縄、九州、北海道居住者の旅行意向が高かった。また、関西居住者VS関東居住者では、関西居住者の関心が関東居住者よりもやや高い結果。関西空港からのLCC就航開始の影響もみられた。新幹線も同様で、九州新幹線は、九州居住者の旅行意向は関西居住者より13ポイント、中四国居住者より17ポイント高い結果。東北新幹線でも関東居住者より東北居住者の旅行意向が11ポイント高い結果となった。

新たな交通機関を利用した旅、話題のスポットへの旅行に対する関心は、距離に応じて関心が大きく低下する傾向に対し、東京スカイツリーについては、全国での関心が比較的高く、全国規模の関心の高さがうかがえる。

■1年以内に実施したい旅行(1年以内に予定している、1年以内に計画しようと思う・計)

		1年以内に行きたい・計								
		用(ロ し格 た安 コ 旅航 ス 行空 ト 会キ 社ヤ)をリ 利	利東 用北 した新 た幹 旅線 行は や ぶ さ を	し新 た東 旅名 行高 速 道 路 を 利 用	旅九 行州 新 幹 線 を 利 用 した	アに東 への京 のる ス 旅東 カ 行京 イ 都 ツ 墨 リ 田 エ開 リ業	をさ東 目れ北 的てエ とリ しア た東 旅北 行観 光 博	アツ東 北 アへの 復ボ 興興 援ラ テ ツ ア	エ世 リア 界 への 遺 旅産 行の 岩 手 県 平 泉	への世 旅界 行遺 産 ・ 小 笠 原 諸 島
全体		21.7	12.1	12.2	18.4	18.5	11.7	7.9	10.5	6.3
居住 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック	28.0	8.1	3.0	8.5	16.5	8.0	4.7	5.7	5.3
	東北ブロック	17.5	27.1	7.3	8.4	22.3	30.3	15.3	22.8	6.6
	関東ブロック	22.0	16.4	16.1	12.2	23.0	14.7	9.9	13.5	8.3
	甲信越・北陸ブロック	17.4	10.7	10.5	10.2	19.8	11.9	9.0	11.0	6.0
	東海ブロック	19.1	9.9	27.7	15.0	19.5	9.4	7.0	8.8	6.7
	関西ブロック	24.4	8.6	10.9	26.2	13.7	8.2	5.9	7.9	5.9
	中四国ブロック	15.8	6.8	6.0	22.8	14.9	5.9	4.4	5.4	4.3
	九州ブロック	28.4	6.5	4.7	39.6	14.3	6.2	5.6	6.8	4.2
	沖縄ブロック	35.6	7.0	2.9	14.6	13.5	7.8	9.4	5.4	3.9

※網掛け: 全体より3ポイント以上高い項目

<今年度の旅行意向に関する調査>

・1次調査にて実施。2011年4月～2012年3月の旅行実施の有無にかかわらず広く調査を実施

・新たな交通機関を利用した旅行、話題のスポットなどを目的とする旅行などについて、今年度(2012年4月～2013年3月末)までに旅行実施を「既に予定している」「1年以内に計画しようと思う」の合計値を表示(複数回答)。